

賀詞交歓会（23, 1, 17）会長挨拶

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、従業員そしてご家族の皆様とともに明るく健やかな新年を迎えられたことと存じます。

日頃は当協会へのご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。未だ続くコロナ禍ではございますが、本年もこのように賀詞交歓会が開催され、皆様にお目にかかれたことを大変喜ばしく思います。

本日は公務ご多忙の中、国土交通省近畿地方整備局より中山営繕部長様、経済産業省中部近畿産業保安監督部より斎藤近畿支部長様、そして大阪府はじめ各官庁よりご臨席を頂き、厚く御礼を申し上げます。

昨年は安倍元総理への銃撃事件、コロナ禍にウクライナ危機が重なり引き起こされた物価高騰や資機材の調達難、さらには金利上昇による大幅な為替変動など、社会経済活動に今までにない不安定さを感じる一年でございました。

これを機にエネルギー安全保障の観点から原子力発電が見直され、また、カーボンニュートラルへの活動も一段と進みました。一方、自然災害においては、28年前の今日、阪神大震災が発生いたしました。地震、豪雨や台風など自然災害の激甚化に対しては防災、減災といった国土強靱化が着実に進められております。さらに、これからは国防への備えも進んでまいります。関西ではこれに加えて、2025年に大阪・関西万博が開催されます。私たち電設業界は今、益々大きな社会的使命を担っており、大きな期待も寄せられております。

今年も業界としてこの期待に元気に応えていきたいと考えます。

そのような中、当協会の喫緊の課題として、来年4月より適用される時間外労働の上限規制に向けての働き方改革がございます。私たちはこの変化を貴重なチャンスと捉え、労働環境の改善に向けて、会員各人が強い意識をもち、各社・各現場一つひとつの見直しから、この活動を進めてまいります。どうぞ、関係各位の皆様のご協力、ご支援を何卒よろしくお願いいたします。

また、本年の秋にはテーマを「和」として電設協全国 会員大会がここ大阪で開催されます。和のテーマは平和の「和」、日本古来の「和」、そして協会の「和」。これを持って明るく開催したいと考えます。重ねて、ご協力を よろしくお願いいたします。

最後になりますが、日本電設工業協会関西支部並びに大阪電業協会の会員各社のご隆盛、本日ご出席の皆様のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。